

OSIPP

大阪大学大学院国際公共政策研究科

NEWSLETTER



Osaka School of International Public Policy

頭脳循環を活性化する海外若手研究者派遣プログラム始動 —2つの国際会議を開催— キックオフ会合 「東アジアの多系的国際秩序に向けて」

1月29日、中之島センターにて、「東アジアの多系的国際秩序に向けて (Towards Multi-lineal International Order of East Asia)」と題された国際会議が開催された。同会議は、OSIPPが日本学術振興会に申請し、昨年11月に採択された「頭脳循環を活性化する海外若手研究者派遣プログラム」のキックオフ会合である。若手研究者の知の循環を目的とする同プログラムの主旨にしたがい、各国の若手研究者が報告を行った。

星野俊也教授が司会を務めた第一セッションでは、オランダ・ライデン大学のリンゼイ・ブラック(Lindsay Black)氏が、ミャンマーにおける自然災害に対する日本の対応について、東北大学の中村文子氏が、人身取引に関するヨーロッパと東アジアのアプローチについて、東北大学のセバスチャン・マスロウ(Sebastian Maslow)氏が、東アジアの地域協力の可能性について、それぞれ報告した。

第二セッションでは松野明久教授が司会をつとめ、国際関係理論に関する報告が行われた。池田丈佑特任助教が、「西洋的国際関係理論」の限界について、立命館アジア太平洋大学のチンチャン・チェン(Ching-Chang Chen)氏が、日本の国際関係論の新たな「学派」としてのあり方について、韓国・延世大学のヨンチュル・チョ(Young-Chul Cho)氏が、韓国における国際関係論の発展について報告した。2つのセッションの質疑応答では、研究者間の知的ネットワークが地域協力を促進させる可能性や、新しい国際関係理論の潮流等について議論が行われた。



バンコクにおいて国際ワークショップを開催

3月5日から6日にかけて、「頭脳循環を活性化する海外若手研究者派遣プログラム」の一環として、“Rethinking Theory and Practice of International Relations in East Asia: Toward a Multi-lineal Order”と題した国際ワークショップがタイ・バンコクで開催された。OSIPPからは松繁寿和研究科長、星野教授、松野教授、池田特任助教、佐藤治子特任研究員、徳永恵美香特任研究員が出席した。



本ワークショップでは、佐藤特任研究員と池田特任助教が国際秩序形成論の視点から報告を行うとともに、韓国、台湾、シンガポール、タイ、インドネシア、フィリピン、インドなどから招いた研究者が各国の視点に基づく報告を行った。参加者からは、「今回の議論の成果を生かし、さらに国際共同研究を深めていきたい」との意見が出された。

2010年度学位記授与式



2010 年度大阪大学大学院学位記授与式が3月25日、大阪城ホールで行われた。OSIPPからは、代表として博士前期課程の越智萌さんが鷺田清一総長から学位記を受領した。鷺田総長は修了生らに向け、「真に教養のあるプロになってほしい」と祝辞を述べた。

同式後、国際公共政策研究科学学位記授与式が OSIPP 棟で開かれ、出席した博士前期課程31人、博士後期課程8人の修了生一人ひとりに松繁研究科長から修了証書が手渡された。また、優秀学位論文賞が博士前期課程の越智さん、日高薫さん、松島みどりさんに贈られた。松繁研究科長は、「社会に出て OSIPP で学んだことを思い出してほしい」とはなむけの言葉を贈った。

高阪章教授最終講義 —乗り越えるべき金融革新、 もう元の世界には戻れない

OSIPPの高阪章教授が3月31日付けで大阪大学を退職した。同教授は、東アジアの経済発展を国際経済の動向と関係づけて研究する中で、広いネットワークを駆使して学内外で多くの実績を残し、また、OSIPP創設時メンバーの一人として研究科長在任時は大阪外国語大学との統合に尽力した。4月1日から関西学院大学教授に就任したが、退職を前に、最終講義が2月18日、OSIPP棟で行われ、学内外から多くの教職員、学生が聴講した。

講義は「Money and Capital: We're Not in Kansas Anymore」と題され、経済成長に果たす金融の役割が論じられた。副題は、19世紀末米国を舞台にしたミュージカル「オズの魔法使い」の中で、竜巻で見知らぬ土地に運ばれた主人公のカンサスの少女が言う有名な科白。教授は、その背景に金本位制下のドル高に抵抗するカンサス等農業州と工業州の間に対立があったことに触れ、結局は金本位制が米国の工業化を実現したように、金融革新が新たな投資機会をもたらした以上、ミュージカル同様、我々もう元の世界には戻れないのであり、金融のリスク管理機能に問題があったとしても、それを乗り越えてゆかなくてはならないと述べた。講義終了後は、花束と温かい拍手が同教授に贈られた。



躍進するインドと日印戦略的 グローバル・パートナーシップ —日印協会理事長平林氏による講演

2月3日、公益財団法人日印協会の平林博理事長を招き、OSIPP政策フォーラム「躍進するインドと日印戦略的グローバル・パートナーシップ」が開かれた。平林氏は外務省入省後、在米公使、駐印・駐仏大使等を経て退官し、現職に就任している。



本フォーラムで平林氏は、国際社会におけるインドの戦略的重要性について概説した後、多極化するインド外交を踏まえた上で、日印関係についての外交的な評価を行った。約150名の参加者からは「核実験後の駐印大使としてのエピソードを聞かせて欲しい」、「対中関係と比較してインドをどう捉えるか」など活発な質問が相次いだ。

外務省若枝氏、「外交官という職業」を語る

2月25日、千里エクステンションセンターにて、外務省国際協力局評価・広報室の若枝一憲氏により「外交官という職業」と題した講演が行われた。



若枝氏は、外務省でのこれまでの勤務経験を写真を用いながら紹介。また、日本と周辺国の問題を幅広い視点から説明し、世界における日本を含む東アジア諸国の役割について語った。外務省への就職を志望する参加者が多く、職員に求められる資質などについて質問が寄せられた。

日韓学生交流のさらなる深化へ

—第2期OSIPP・慶熙大学国際関係学院

連携冬期プログラム実施

2月13日から19日の間、韓国の慶熙大学国際関係学院の学生33人がOSIPPを訪れ、冬期プログラムが実施された。同プログラムは、昨年2月にも実施され、今回は第2期目。松繁研究科長、星野教授、竹内俊隆教授、ヴァージル・ホーキンス准教授らが講義を行ったほか、自衛隊舞鶴基地訪問やOSIPP生を交えたディスカッションも行われた。参加学生からは、「日本の学生との意見交換のよい機会となった。今後も続けて欲しい」などのコメントが寄せられた。



山内教授と奥山尚子さん(D3)

第9回「日本NPO学会審査委員会特別賞」受賞

山内直人教授と奥山尚子さんが調査分析を担当した『寄付白書2010』(日本ファンドレイジング協会編、日本経団連出版、2011年)が、第9回日本NPO学会審査委員会特別賞を受賞した。同賞は、NPO/NGOや市民社会に関する特に優れた研究に対して授与される。大規模な全国調査に基づき、個人寄付総額やボランティア総時間、寄付とボランティアの関係などについて、日本で初めて詳細に明らかにしたことが評価された。山内教授は「寄付やボランティアは市民社会の活動を支える重要な資源で、研究対象としても無限の可能性があり、さらに関心が高まれば嬉しい」と語った。

OSIPP修了生就職先

2011年3月にOSIPPを修了した学生の主な就職先は以下の通り(OSIPP教務係に届け出があったものに限る。順不同)。

株式会社東芝、富士通株式会社、富士ゼロックス株式会社、帝国航業株式会社、大阪大学、滋賀大学、吉備国際大学、金蘭会中学・高等学校、防衛大学校、特定非営利活動法人関西NGO協議会、特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21

OSIPP紀要

『国際公共政策研究』発行

OSIPPが編集・発行する紀要『国際公共政策研究』第15巻第2号が3月に発行された。本号には論文8編が掲載されている。

- ▼蓮生 郁代「アカウントビリティと責任の概念の関係－責任概念の生成工場としてのアカウントビリティの概念－」
- ▼Jose CAMACHO, Jr. and Ranna Maih PINTOR “An Analysis of the Effect of ICT Integration in High School Test Performance in Masbate, Philippines”
- ▼吉岡 孝昭「中国における分税制とマクロ・コントロールに関する分析－『強中央』実現を目指す動きを中心に－」
- ▼千々和 泰明「現代日米外交と政策エリート－1980年代以降の駐米大使の役割を中心に－」
- ▼李 榮「民権から国権へ－ナショナリティの束縛－」
- ▼何 力群「第一次石油危機前後の中曽根康弘－『資源外交』をめぐる－」
- ▼Graham LEONARD “The 1954 Shunkotsu Maru Expedition and American Atomic Secrecy”
- ▼Yukiko NAKAMURA “Who Protects Me from Whom? Alliance Formation and Survival of Political Leaders in the Third World”



「型にはまらず、 やりたいことに挑戦しよう」 山根友美さん (D3)

真面目そうな雰囲気漂わせるが、優しい笑顔の中に包み込むような温かさを感じる。研究と仕事の両立、誰もが成し遂げられるものではないことに挑戦する積極性と気概の高さに、憧れる後輩もいる。博士後期課程に在籍する山根友美さんは、現在、独立行政法人国際協力機構(JICA)本部で国際開発金融機関等との連携を促進する仕事を担当している。

気候変動、食料の危機など地球規模の課題の顕在化、新興ドナーの台頭、チュニジアで起きたジャスミン革命に代表される中東の不安定化などが、開発援助の在り方や構造にも影響を与え、従来の援助について問題を提起する契機となっている。このような国際援助の環境をめぐる変化の中、山根さんは限られた資金で効果的、効率的に支援を行えるよう、JICAと他ドナーとのパートナーシップを促進することや、国際会議等を通じ、国際社会へ援助の在り方に関する重要な発信を行う仕事を担当する。山根さんは、この仕事は開発の現場から遠く直接途上国の人々に関わる機会が少ないが、上流部分の政策決定プロセスを見ることができ、面白いと話す。

山根さん自身の研究テーマは、「途上国の若者」だ。高学歴の若者が就労できないという教育と雇用ニーズのミスマッチが多くの国で問題となっている。このような若者を取り巻く環境を分析し、それに基づいて政策立案することを目指している。修士論文では、国連児童基金(UNICEF)東ティモール事務所で行ったインターンシップの経験を生かしつつ論文を執筆した。仕事と両立し、研究のためのまとまった時間を確保することが専らの課題だが、博士論文でも複数の途上国における若者の労働と教育の関係性を比較、検証していきたいと考えている。このように強い問題意識と行動力を兼ね備える山根さんは、OSIPP生にも「積極的に行動し、型にはまらずにやっていけばよい」と自ら率先して行動することを強く勧めている。日本と途上国と世界の架け橋になるべく、優しい笑顔を浮かべながら山根さんは今日も課題に取り組む。



(左が山根さん)

2010年度OSIPP学位取得者の一覧

2010年度の学位取得者は、博士前期課程(修士)が31人、博士後期課程(課程博士)が10人であった。学位取得者の全氏名、全論文題目は以下の通り(敬称略、順不同)。

<修士>

▼越智 萌「国際的刑事裁判所判決の国内裁判に対する一事不再理効-Bagambiki 事件に関する ICTR 判決とルワンダ国内裁判所判決-」▼河合 将志「アメリカの戦略文化-湾岸戦争における戦略文化の影響-」▼立田 浩洸「都道府県別パネルデータを用いた老人医療費に関する実証分析」▼西村 杏理「日本の対中文化交流政策のあり方をめぐって-その課題と展望-」▼日高 薫「クラスター弾に関する条約の成立-レジーム論による過程分析-」▼崔 順愛「健康予防行動に関する要因分析」▼Zareva Boryana Georgieva “International Legal Remedies for Victims of Gross Human Rights Violation: The Implication of the Rome Statute” ▼Hakeem Emmanuel “Institutions and Economic Growth: ECA Region” ▼Pourzitakis Efstratios “Defusing the Bomb or Just Talk? EU-Japan Cooperation on the NPT” ▼Martylenko Oleksandr “Power-sharing and Shared Sovereignty in Badly Governed Societies” ▼Mihaylov Stoyan “European Union’s Impact on Continental Trade Flows: A Gravity Model Analysis” ▼Radulescu Ana Maria Despina “Human Trafficking in Romania-Counter-trafficking Policies and Vulnerability to Human Traffic” ▼高橋 美和子「武力紛争下の文化財保護制度をめぐる諸問題-1954 年ハーグ条約にもとづく積極的保護の現状と課題-」▼丸岡 沙也香 “The Trade-off versus the Compatibility between Sustainability and Women Outreach of MFIs: Empirical Evidence from South Asia” ▼宇佐美 宗勝「国内空港ターミナルビル会社の経営成果の分析」▼川崎 夏葉「人の移動に関する国際通商と国内法制の交錯-日本・フィリピン EPA を題材に-」▼川島 広也「労働市場の状況が犯罪発生率に与える影響」▼熊野 まり「EU の開発援助政策と WTO 体制-EU-ACP パートナシップ協定の変容を中心に-」▼嶋本 大地「労働移動と送金-アルバニアの事例-」▼浜田 真弓「中間支援組織の財務的特徴と課題: NPO 財務データによる実証分析」▼矢田 瞳「知的財産権制度の国際的調和への



模索-模倣品・海賊版問題と多様化した秩序をめぐる-」

▼吉川 香菜子「スリランカにおける健康の決定要因」▼Vu Manh Tien “Lexicographic Son Preference in Vietnam” ▼高 豊盛「中国社会における信頼に関する実証分析-CGSS のデータを用いて-」▼徐 威「中国における幸福度の決定要因-総合社会調査の個票を用いた実証分析-」▼繆 宇 “An Empirical Analysis of the Relationship between FDI and Trade in Developing Countries” ▼李 月「中国における健康とソーシャル・キャピタル」▼劉 圓方「中国江蘇省における FDI 誘致の決定要因について-52 県級市のパネルデータを用いた分析-」▼劉 汀蘭「日中間のエネルギー安全保障分野における協力の展望-相互信頼の深化に向けて-」▼南 埜 貴子「特定非営利活動法人の成長と収入安定性-愛知県認証法人の財務データを用いた実証分析-」▼松島 みどり “An Empirical Analysis on the Relationship

between Women’s Autonomy and Adolescent Child-bearing Behaviour: A Study in Nicaragua”

<課程博士>

▼神谷 祐介 “Essays in Health Economics for Developing Countries” ▼奥山 尚子 “Economic Analysis on Nonprofits and Philanthropy” ▼Subramaniam Mogana Sunthari “Courts and Adoption Agencies as Guardians of the Welfare of the Child Principle: A Japan-UK Comparison” ▼何 力群「政治構造の転換と中曽根康弘-1970 年代を中心に-」▼滝本 シゲ子「刑事司法精神鑑定制度の研究」▼To, Minh Thu “General Equilibrium Assessments of Vietnam’s Unilateral Trade Liberalization and Regional Trade Agreements” ▼脇浜 紀子「地域民間放送の経済分析」▼李 榮「明治初期の政治思想における道徳と自由-福沢諭吉と中村敬宇を中心に-」▼岩井 浩一「日本の CDS 市場と ETF 市場の価格形成に関する実証研究」▼原 琴乃 “Does Education Matter for Peace and Democracy? Policy Implications for International Cooperation in Education by Japan and the World”

◆IPP研究会◆

▼1月21日 「金融システムのデザイン」

福田慎一氏(東京大学)“Market-specific and Currency-specific Risk during the Global Financial Crisis”、宮越龍義氏(大阪大学)「サブプライムローン危機の日本経済への影響」、秋葉弘哉氏(早稲田大学)“Effects of Currency Substitution as a Logical Consequence of Pricing-to-Market”、小川英治氏(一橋大学)“AMU and monetary cooperation in Asia”、家森信善氏(名古屋大学)「グローバル金融危機のもとでの信用保証制度」、吉田雅敏氏(筑波大学)“Optimal Provision of Public Goods in an Imperfectly Competitive Model”

▼2月18日 万軍民氏(福岡大学経済学部准教授)“A Solution to Tax Evasion”

◆OSIPP政策フォーラム◆

▼2月3日 平林博氏(日印協会理事長・元駐インド大使)「躍進するインドと日印戦略的グローバル・パートナーシップ」

▼2月25日 若枝一憲氏(外務省国際協力局政策課評価・広報室)「外交官という職業」

◆待兼山セミナー (大阪大学経済学研究会)◆

▼12月16日 宮際計行氏(Emory University)“It's now or never: deadlines and cooperation”

▼1月5日 三輪芳朗氏(東京大学)「銀行ばなれと金融危機騒動の実相—『法人企業統計季報』個表を用いた検討結果の概要—」

▼1月6日 竹本亨氏(帝塚山大学)“Do great distance and discussion among dictators facilitate self-interest of people?: Experimental evidence from dictator games”

▼1月27日 大橋弘氏(東京大学)“Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: Japanese Solar Energy”

◆NPO研究フォーラム◆

▼1月30日 田中弥生氏(大学評価・学位授与機構准教授)「非営利組織の評価とは—課題解決策としてのエクセレントNPO基準と自己診断リスト—」、大原謙一郎氏(財団法人大原美術館理事長)「非営利公益事業体経営の原理原則—公益価値経営の現場報告—」

▼2月21日 Pepijn van Houwelingen氏(オランダ社会科学研究所研究員)「オランダ市民社会の最新事情」

◆国連政策研究センター (CUNPS)セミナー◆

▼1月18日 平林国彦氏(ユニセフ東京事務所代表)「心臓外科医から国連職員へ—ユニセフの活動とキャリア—」

▼2月18日 田瀬和夫氏(イスラマバード国連広報センター所長代行兼OSIPP招へい教授)“The Nexus between Humanitarian and Development Assistance in post-Disaster Situation: A Perspective from Human Security”

▼2月18日 保坂菜穂子氏(ユニセフ・マダガスカル事務所・計画モニタリング担当官)、二井矢洋一氏(人事院公務員研修所教授)、敦賀和外氏(GLOCOL特任准教授)「国連人事・採用の制度と実際—人事制度と国連職員体験談—」

記事の訂正とお詫び

2011年冬号(No.56)に掲載いたしました記事の中に誤りがありました。1面中段右の記事の中で、パネリストの前UNESCO事務局長のお名前が「松浦晃一郎」氏となっておりますが、正しくは「松浦晃一郎」氏の誤りです。また、2面上段左の記事の中でOSIPPアドバイザリーボード議長の金森順次郎氏の肩書が、「国際高等研究所長(大阪大学元総長)」となっておりますが、「山田科学振興財団理事長・大阪大学名誉教授(大阪大学元総長)」の誤りです。ここに訂正するとともに、松浦様、金森様、読者の皆様ならびに関係各位に深くお詫び申し上げます。

OSIPP人事異動(2011年1月~3月)

2011年1月16日付で、特任研究員として佐藤治子氏が着任した。3月1日付で教務係事務補佐員に大井優子氏が着任。3月31日付で、松繁寿和教授が研究科長を離任し、教授の高阪章氏(関西学院大学へ)、講師(協力講座教員)の近藤絢子氏(法政大学へ)、助教の高嶋和毅氏(東北大学電気通信研究所へ)、宮崎麻美氏(熊本学園大学へ)、事務長の小梶俊二氏、専門職員の長井純氏、特任研究員の高橋明子氏、教務係事務補佐員の川村翠氏が退職した。同日付で、会計係事務職員の吉田佐知子氏(京都教育大学へ)、教務係事務職員の築島健太郎氏(理学研究科へ)が離任した。

活動報告

(2010年12月～2011年3月)
順不同、一部敬称略
学年は情報当時のものを掲載

●論文・論説など●

■ 床谷文雄教授 「親としての配慮・補佐・後見(一)―ドイツ家族法解説―」『民商法雑誌』142巻6号、12月(共著)

■ 野村美明教授 「知的財産権に関する国際私法原則の一般規定―2009年「知的財産権に関する国際私法原則」に関する日韓共同研究会―」『企業と法創造「特集:アジアと日本の法」』7巻2号、10年11月
「シンジケートローン契約におけるエージェントの免責規定はどこまで有効か―比較法的検討」『OSIPP Discussion Paper, DP-2011-J-003, 3月

■ 星野俊也教授 「@book café 書評: 峯陽一・武内進一・笹岡 雄一編『アフリカから学ぶ』、前田 耕作『アフガニスタンを想う』、西原 正・堀本 武功編『軍事大国化するインド』』『外交』Vol.4、12月

「文化遺産保護と平和構築」『理』Vol.26、3月
「海外ニュースの読み方(コートジボワール情勢/北朝鮮による韓国砲撃事件/米外交の新方針-QDDRの試み)」、「書評: 数中三十二『国家の命運』」『国連ジャーナル』2011年春号、3月

■ 松繁寿和教授 「『経営トップが薦める1冊の本』解題～インタビューと本をととして見えるもの～」『KPC NEWS』Vol.38、No.439、1月

「『経営トップが薦める1冊の本』解題～インタビューと本をととして見えるもの～」『KPC NEWS』Vol.38、No.440、3月

「学歴社会イメージが学習意欲に与える影響―『拡張された経済人モデル』の検討―」『広島大学高等教育研究センター大学論集』42集、3月(共著)

■ 真山 全教授 「国際刑事裁判所規程検討会議採択の侵略犯罪関連規定―同意要件普遍化による安保理事会からの独立性確保と選別性極大化」『国際法外交雑誌』109巻4号、3月

■ 山内直人教授 「社会変革に向けた企業・NPO・行政の新しい協働とは(講演の概要)」『コミュニティ財団NEWS』No.13、12月

「NPO法人の収入構造と成長パターン―全国データベースによる財務指標分析から―」『大阪大学経済学』60巻4号、3月(共著)

「大震災からの復興と市民社会の役割」『GISPRI(地球産業文化研究所) ニュースレター』3月

■ 利 博友教授 “Assessing the Impact of the ASEAN Economic Community,” *OSIPP Discussion Paper*, DP-2011-E-002, March (共著)

■ 赤井伸郎准教授 “Incentive Transfer Schemes with Marketable and Nonmarketable Public Services,” *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, Vol. 166, No.4, December (共著)

「バランスシート行政コスト計算書による財政評価 ―大阪府の事例―」『会計検査研究』43号、3月(共著)

■ 大槻恒裕准教授 “Econometric Analysis of the Impact of Trade Facilitation in ASEAN,” *ERIA Research Report*, March

■ 木戸衛一准教授 “Gedenken zwischen Versöhnung und staatlicher Instrumentalisierung in Japan,” *KOREAFORUM*, 1+2/2010, January

「徴兵制「停止」に向かうドイツの政治社会―軍事化の中の民主主義と人権―」『立命館法学』2010年5-6号上巻、3月

■ 小原美紀准教授 “Measuring Search Frictions Using Japanese Data,” *GCOE Discussion Paper, Graduate School of Economics, Osaka University*, No.179, February (共著)

“Is longer unemployment rewarded with longer job tenure?” *OSIPP Discussion Paper*, DP-2011-E-001, February (共著)

■ Virgil HAWKINS准教授 “Book Reviews: *Global crisis reporting: journalism in the global age* (Simon Cottle),” *Journalism Studies*, Vol.12, No.2, March

■ 進生郁代准教授 「アカウントビリティと責任の概念の関係―責任概念の生成工場としてのアカウントビリティの概念―」『国際公共政策研究』15巻2号、3月

■ 和仁健太郎准教授 「書評: Yutaka Arai-Takahashi, “The Law of Occupation: Continuity and Change of International Humanitarian Law, and Its Interaction with Human Rights Law,”」『国際法外交雑誌』109巻3号、10年11月

「国連海洋法条約における「軍事調査」の位置―「海洋の科学的調査」との関係―」『「海洋科学的調査をめぐる法的諸問題」に関する勉強会研究報告書』、3月

■ 宮崎麻美助教 “Between the Theory and Policy: Environmental Networking the East Asian Way,” *Ritsumeikan International Affairs*, Vol.9, February

■ 吉村季利子(D1) 「イスラエル・パレスチナにおける二民族共生の課題―ホリスティック・アプローチによる相互理解の可能性―」『ホリスティック教育研究』2011年14号、3月

●著書●

■ 高阪 章教授 「マクロ金融リネージュと金融深化: 東アジアの視点」『「世界的景気後退と開発途上国の政策対応」調査研究報告書』、アジア経済研究所、3月(分担共著)

■ 床谷文雄教授 「婚姻の成立と要件」『夫婦の法律相談第2版』、有斐閣、12月(分担共著)

「養子法」『家族法改正』、有斐閣、12月(分担共著)

■ 山内直人教授 「寄付白書2010」1、2、4章、日本経団連出版、1月(分担共著)

『ソーシャル・キャピタルの実証分析』、大阪大学NPO研究情報センター、3月(共同編集)

■ 中嶋啓雄准教授 「孤立主義の時代」ほか『ハンドブック アメリカ外交史―建国から冷戦後まで』、ミネルヴァ書房、3月(分担共著)

■ 菅原絵美(D3) 「人権CSRガイドライン: 自己診断を通じて知るマネジメントとパフォーマンスの達成度」(部落解放・人権研究報告書No.19) 1～5章、社団法人 部落解放・人権研究所、3月(分担共著)

「中国―日本―韓国 国連グローバル・コンパクト共同調査2010」『東アジアのCSR: 国連グローバル・コンパクトの新たなチャレンジ』、法政大学出版局、3月(共訳)

■ 奥山尚子(D3) 「寄付白書2010」1、2、4章、日本経団連出版、1月(分担共著)

「18章」『ソーシャル・キャピタルの実証分析』、大阪大学NPO研究情報センター、3月(分担共著)

●学会、研究会における研究報告●

■ 高阪 章教授 “Capital Account Liberalization and the Role of the RMB,” *PAFTAD34*, Peking University, December (討論者)

“Financial Linkages and Business Cycles of Japan: An Analysis Using Financial Conditions Index” (共同発表)、“Financial Integration and Consumption Smoothing” (討論者)、JSPS EU-Japan Joint Workshop on The Real Effects of Financial Integration in East Asia and Europe, University of Naples Federico II, February

■ 竹内俊隆教授 「日米同盟の将来: 東アジアの安全保障と核政策」、国際時局セミナー、静岡、12月(講演、パネリスト)

大阪大学中国フォーラム・セミナー、大阪大学、2月(司会)

■ 床谷文雄教授 「特別養子制度の現況と課題」、筑波法学研究会、筑波大学、1月

■ 野村茂治教授 “Migration and the medical markets in Japan,” *Urban Affairs Association*, New Orleans, March (共同発表)

■ 野村美明教授 「日韓共同提案における一般規定」、知的財産法・国際私法シンポジウム「知的財産権に関する国際私法原則―日韓共同提案を中心に―」、早稲田大学、1月

■ 星野俊也教授 「日米同盟の将来: 東アジアの安全保障と核政策」、日米安全保障フォーラム: 日米同盟の将来: 東アジアの安全保障と核政策、大阪大学中之島センター、12月

“The Conception and Practice of the Self-Defense Forces of Japan: Their Reforms and Development,” International Conference on Promoting Security Sector Reform in South Asia: Lessons from Japanese Experience, Bangladesh, December

「国際社会による平和維持と平和構築支援の在り方」、外務省シンポジウム「平和構築の課題～平和維持と平和構築の有機的連携を目指して～」、国連大学、12月(司会・総括)

「OSIPPから国連へ、国連からOSIPPへ 国際公共政策の研究と実践を結ぶ「輪」-Ver.2.」、『国際公共を考える日』トークセッション/国連政策セミナー、OSIPP、12月(司会)

「アフガニスタンの復興と国連」、国連政策セミナー、OSIPP、12月(司会)

“Dissemination Meeting and Policy Roundtable on the Responsibility to Protect,” Dissemination

Meeting and Policy Roundtable on the Responsibility to Protect, JICA東京研究所、1月

「「復興」と文化遺産」、第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会、東京国立博物館、1月(議長・パネリスト)

“Perspectives from Issues,” International Conference “Towards Multi-lineal International Order of East Asia,” 大阪大学中之島センター、1月(司会)

“Ways Forward in Advancing R2P in Asia,” 「保護する責任アプローチの批判的検討」研究会、大阪大学中之島センター、2月

「グローバルな国連・教育プログラムの課題と可能性」、第9回国連改革に関するパブリックフォーラム、東京、2月(司会総括)

“Reshaping International Order in East Asia: Roundtable Discussion,” International Workshop “Rethinking Theory and Practice of International Relations in East Asia: Toward a Multi-lineal Order,” Bangkok, March (司会)

■ 松繁寿和教授 International Conference “Towards Multi-lineal International Order of East Asia,” 大阪大学中之島センター、1月(パネリスト)

International Workshop “Rethinking Theory and Practice of International Relations in East Asia: Toward a Multi-lineal Order,” Bangkok, March (パネリスト)

■ 松野明久教授 「フード・セキュリティの政治学―グローバル化と東ティモールにおける紛争後復興、ワークショップ「フード・セキュリティと紛争」、OSIPP、12月

“Theoretical Investigations,” International Conference “Towards Multi-lineal International Order of East Asia,” 大阪大学中之島センター、1月(司会)

“West Papua and the changing nature of self-determination,” Comprehending West Papua Conference, University of Sydney, February

“Revisiting International Order in East Asia: Country Perspectives,” International Workshop “Rethinking Theory and Practice of International Relations in East Asia: Toward a Multi-lineal Order,” Bangkok, March (司会)

■ 真山 全教授 「国際人道法における海上警察の地位」、海上保安庁・JICAアセアン地域海上安全保障能力強化研修、海上保安大学校、12月

「対地攻撃の国際法的検討」、航空自衛隊第7航空団幹部会研究会、航空自衛隊百里基地講堂、2月

■ 村上正直教授 “Development of International Human Rights Law and Japanese Law—Immigration Detention Case—,” The International Conference on Centennial of Human Rights in Taiwan: Retrospect and Prospect, National Taiwan University, December

■ 山内直人教授 「財政金融分科会」、WEST論文発表会、大阪大学、12月(コメンテーター)

「日本人の寄付とボランティア: 日本初の寄付白書による分析」、NPO研究フォーラム、大阪大学、12月(共同報告)

「日本人の寄付とボランティア: 日本初の寄付白書にみる最新事情」、日本NPO学会・市民社会研究フォーラム、CIC東京、1月(共同報告)

■ 米原 謙教授 「近代東アジアのナショナリズムの相克」、第二回日韓交流セミナー、広東外語外貿大学、10年10月(趣旨説明・司会)

■ 利 博友教授 “Assessing the Impact of the ASEAN Economic Community,” Economics Seminar, University of Hawaii, March

■ 赤井伸郎准教授 “Role of decentralization indices in empirical research – usefulness, potential bias, and suggestion for improvement,” OECD Expert Meeting on Taxonomy of Grants and Measurement of Decentralization, Paris, March

■ 大槻恒裕准教授 “Quantifying the benefit of trade facilitation in the ASEAN,” The 2nd Workshop of ERIA Research Project “Toward a Competitive ASEAN Single Market: Sectoral Analysis,” Jakarta, January

“Quantitative Analysis of the Impact of SPS/TBT Regulations on Developing Country’s Exports,” IDE-APLセミナー、アジア経済研究所、2月

“Impacts of tightened standards and regulations in trade,” ERIA-IDE-UNIDO Expert Group Meeting, Jakarta, March

■ 木戸衛一准教授 「DDR史研究の現在」、ドイツ現代史研究会、キャンパスプラザ京都、12月

「NATOの現在(いま)とドイツの徴兵制「停止」」、関西平

和問題研究会、ウイングス京都、1月

■ 瀧井克也准教授「企業と雇用」セッション、日本経済学会2010年度秋季大会、関西学院大学、10年9月(座長)

“Persistent Productivity Differences between Firms,”「サービス産業生産性向上に関する」研究会、経済産業研究所、1月

“Persistent Productivity Differences between Firms,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations (Conference: 2011 Spring), 東京大学、3月

“Horizontal Transfer and Promotion: Evidence from Personnel Data in Many Firms,” Trans-Pacific Labor Seminar 2011, 京都大学、3月(共同発表)

“Persistent Productivity Differences between Firms,”「少子高齢化時代の労働政策に向けて:日本の労働市場に関する基礎研究」研究会、経済産業研究所、3月

“Horizontal Transfer and Promotion: Evidence from Personnel Data in Many Firms,” 関西労働研究会、大阪大学中之島センター、3月

■ 内記香子准教授「ソフトロー研究の展開-国際関係論とガバナンス論からの示唆-」、国際法研究会、京都大学、12月

「WTO上級委員会報告書の評釈・豪州-NZからのりんご輸入に関する措置事件」、パネル研究会、経済産業研究所、3月

■ Virgil HAWKINS准教授 “Beyond the CNN effect: new approaches to understanding media communications and global politics,” International Studies Association (ISA) International Conference, Montreal, March

■ 蓮生郁代准教授 “Transformation of the Concept of Accountability of the UN Security Council,” International Studies Association Annual Convention, Montreal, March

「サントリー文化財団「21世紀国際システム研究会」ユネスコの役割」、21世紀国際システム研究会、東京、3月(コメントーター)

■ 和仁健太郎准教授 「戦時占領の法的構成と占領法規の射程」、国際法研究会、法政大学、10年11月

■ 高嶋和毅助教 “Comparison of co-located and remote collaborative work using a stereoscopic image on path steering law,” Conference on Artificial Reality and Teleexistence, University of South Australia, Adelaide, AU, December (共同発表)

「物語テキストから進行状況に応じて登場人物の存在状態と関係を推定する手法」、第18回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ、福島、12月(共同発表)

「ウェブ上の類似画像に付加されたメタ情報に基づく画像スコアリング」,「FuSA2 Touch Display: 大画面毛状マルチタッチディスプレイ」、「携りのメタファを用いたビューポート制御インタフェース」、インタラクション2011、日本科学未来館、3月(共同発表)

「視点評価に基づくマルチパースペクティブ画像の生成」、電子情報通信学会総合大会、東京都市大学、3月(共同発表)

■ 宮崎麻美助教 “Shading of Environmental Institutions: Regional Cooperation on Haze Issues in Southeast Asia,” “Filling the Gap via ‘Loose Institutions’: A Case Study from the Acid Deposition Monitoring Network in East Asia (EANET),” International Studies Association (ISA), Montreal, March

■ 須原三樹(D1) 「都道府県立美術館の効率税-確率的フロンティア分析による実証-」、青山学院大学経済学研究所周期プロジェクトワークショップ第4回地方自治体の公共選択、青山学院大学、12月(ゲストスピーカー)

■ 政所大輔(D2) 「保護する責任の規範化プロセス」、国際関係論研究会、神戸大学、2月

“The Stance and Policy of the EU for the Responsibility to Protect,” 2011 Asian Workshop on the EU Study: The Future of European Integration and EU-Asia Relations, 国立台湾大学、2月

「保護する責任の規範化プロセス」,「保護する責任アプローチの批判的検討」研究会、大阪大学、2月

■ 奥山尚子(D3) 「日本人の寄付とボランティア: 日本初の寄付白書にみる最新事情」、市民社会研究フォーラム、キャンパスイノベーションセンター、1月

●受賞●

■ 山内直人教授 「寄付白書2010」、日本NPO学会審査委員会特別賞、日本NPO学会、3月

■ 瀧井克也准教授 100 Papers Selection(Annual Report of Osaka University Academic Achievement

2009-2010) “Does the Diversity of Human Capital Increase GDP? A Comparison of Education Systems,” *Journal of Public Economics* (2009)

■ 奥山尚子(D3) 「寄付白書2010」、日本NPO学会審査委員会特別賞、日本NPO学会、3月

●報道●

■ 竹内俊隆教授 「日米関係の重要性指摘」『静岡新聞』12月2日

「日米同盟の将来-東アジアの安全保障と核政策」『中部未来』2010年12月号、12月

■ 星野俊也教授 「日本をどう守る」『ウェークアップ!ぶらす』(読売テレビ)、12月11日

“Democracy, not military rule, can ensure security,” *The Daily Star*, December 15

「【企画特集】恒久的世界平和の実現に向けて-世界学生平和会議開催」『産経新聞』12月25日

■ 松繁寿和教授 「高校生にEU講座 駐日広報部長ら講演 金蘭千里高」『朝日新聞』2月24日

「生涯賃金が多いのは理系?文系?」『週聞東洋経済』2011/3/19号、3月

■ 松野明久教授 “A worm inside the new Indonesia,” *Sydney Morning Herald*, February 26

■ 山内直人教授 「個人の寄付09年5455億円: 民間団体が白書発行」(コメント)『毎日新聞』12月24日

「始まる?寄付元年: 問われるNPOの発信力」(コメント)『朝日新聞』(東京本社版朝刊)1月6日

「『タイガーマスク』新たに10件」(コメント)『読売新聞』(東京本社版朝刊横浜地域版)1月12日

「タイガーマスクが見落としたもの」(コメント)NHK総合『ニュース深読み』1月29日

「ひと脈々-震災発市民組織の志(下)広がるNPO、基盤作り先導(人物活動紹介)」『日本経済新聞』(大阪本社版夕刊)2月10日

「寄付: 社会を動かせる活動の一つ」(コメント)『朝日小学生新聞』(朝日学生新聞社)2月21日

「震災募金 信頼性高めて 寄付先、団体名を明示」(コメント)『読売新聞』(大阪本社版朝刊)3月17日

■ 赤井伸郎准教授 「Book Review:『交通インフラとガバナンスの経済学』」『経済セミナー』No.657、12月(著書紹介)

「経済教室: 税源確保に説明責任を」『日本経済新聞』12月20日

■ 高嶋和毅助教 “New ‘Flex’ Touchscreen Interface Demonstrated Using Google Maps,” Diginfo TV, March

●講演会・展示会●

■ 阪 章教授 “Macro-financial Linkages and Financial Deepening,” OSIPP-SAIS Special Seminar on Regional Integration at the Cross Road: An East Asian Perspective, Bologna Center, The Paul H. Nitze School of Advanced International Studies, Johns Hopkins University, Bologna, Italy, March

■ 竹内俊隆教授 「日米同盟の将来: 東アジアの安全保障と核政策」、国際時局セミナー、12月(講演、パネリスト)

“Japan’s Constitution, Japan’s Nuclear Policy,” 平成22年度日本社会文化講義、外交官・公務員日本語研修、12月

“Japan’s Constitution, Japan’s Nuclear Policy,” OSIPP-KHU Intensive Winter Program, February

■ 星野俊也教授 “Japan’s Role in peacebuilding in Africa,” Kofi Annan International Peacekeeping and Training Centre, Accra, Ghana Training Centre, March

“Japan’s Role in peacebuilding in Africa,” University of Ghana, Legon Campus, March

■ 松繁寿和教授 「少子高齢化社会における女性の活躍と経済成長」,「総合討論」(コメントーター)、第2回中国四国男女共同参画シンポジウム、12月

「パネル討論会『ワーク・ライフ・バランス実現への大学の取組』」、大阪大学第4回男女共同参画シンポジウム、12月(司会)

「少子高齢化社会における女性の活躍と経済成長-地方行政の役割-」、川西市 男女共同参画職員研修会(管理職、一般職)、2月

「EUの専門家からEUと日本の関係を学ぼう」、金蘭千里高等学校生向け講演会、2月(企画・開会の挨拶)

「労働力基盤の変化と日本経済復興のためのダイバーシティ」、愛媛大学第1回女性未来育成センター公開シンポジウム、3月

「日本のWLBと女性雇用の現状」,EUI 関西ビジネス・セ

ミナー、3月

■ 山内直人教授 「日本の寄付市場の変容と拡大」、ファンドレイジング・日本2011ブレイブ: 寄付白書出版記念講演会、2月

「エクセレントNPOが社会変革を担う」、第21回GISPR1シンポジウム: ソーシャルビジネスを担うCSRとNPO、2月(講演およびパネリスト)

「新しい公共と寄付の役割-寄付文化を定着させるために-」、筑波大学基金創設記念式典、3月

「協働のまちづくりをどう進めるか」、大阪市・市民協働フォーラム、3月

■ 木戸衛一准教授 「ドイツの政治と選挙制度」、大阪弁護士会、12月

「ドイツの過去清算を考える」、在日青年団体学習会、1月

“Der Koreakonflikt und Japan,” ドイツボランティア学習会、3月

「徴兵制『停止』に向かうドイツ」、市民の意見30・関西、3月

■ 内記香子准教授 「『貿易と環境』問題の新展開」、21世紀東アジア青少年大交流計画、12月

■ 中嶋啓雄准教授 「1980年代以降のアメリカ政治外交-歴史的視座から」、上田高校関西西同窓会第4回文化サロン、3月

■ Virgil HAWKINS准教授 「メディアと世界」、大阪府立天王寺高校講演、2月

「武力紛争と私たちの関係」、ワン・ワールド・フェスティバル2010年度、2月

■ 蓮生郁代准教授 「国際社会でのキャリアを推進するために」,「国際公共を考える日」松浦晃一郎前ユネスコ事務局長講演会、12月(司会)

「OSIPPから国連へ、国連からOSIPPへ-国際公共政策の研究と実践を結ぶ『輪』-ver.2」,「国際公共を考える日」トークセッション、12月(パネリスト)

「若者よ、世界が舞台だ」、国連政策セミナー、12月(司会)

「人間の安全保障: ジェンダーと市民社会の役割」、国連政策セミナー、12月(司会)

■ 吉村季利子(D1) 「民族紛争と平和的共生-イスラエルにおけるユダヤ・アラブの共生村の実践から-」、立命館守山中学校「平和学習 講演会」、3月

●会議運営●

■ 野村美明教授 大学対抗交渉コンペティション、インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション運営委員会、12月(運営委員)

第六回・大学対抗交渉コンペティションシンポジウム「ディベートと法教育: 議論がかみ合うとはどういうことか」、大学対抗交渉コンペティション運営委員会、2月(運営委員長)

■ 星野俊也教授 OSIPP政策フォーラム「躍進するインドと日印戦略的グローバル・パートナーシップ」、OSIPP政策フォーラム、2月(司会)

■ 松繁寿和教授 日本労務学会第109回常任理事会、日本労務学会、2月(常任理事・理事)

島根大学男女共同参画推進室 外部評価委員会、島根大学男女共同参画推進室、3月(評価委員)

■ 真山 全教授 国際人道実調査委員会年次会合、第4副委員長、2月

●共同研究・受託研究・補助金●

■ 竹内俊隆教授 「国際連合安全保障理事会と総会における投票行動データベース作成とシミュレーション分析」、(財)科学技術融合振興財団、3月-13年3月(研究助成)

●学外運営●

■ 星野俊也教授 法務省、難民審査参与員、10年4月-日本国際連合学会、理事、10年6月-

■ 山内直人教授 2012国際協同組合年全国実行委員会、委員、10年8月-

39th Annual ARNOVA Conference, Member of the Emerging Scholar Award Committee, September, 10 - November, 10

■ 米原 謙教授 日本思想史学会、理事、10年10月-12年4月

■ 利 博友教授 Crawford School of Economics and Government, Australian National University, 博士論文外部審査員、1月-

■ 瀧井克也准教授 独立行政法人経済産業研究所「サービス産業生産性向上に関する」研究会、委員、10年4月-

■ 蓮生郁代准教授 サントリー文化財団「21世紀国際システム研究会」、研究会メンバー、10年4月-

■ 和仁健太郎准教授 国際関係論研究会、運営委員、10年4月-11年3月

国際関係論研究、編集委員、10年4月-11年3月

書評

康宗憲(2007年OSIPP博士後期課程修了)

『死刑台から教壇へー私が体験した韓国現代史ー』(角川学芸出版、2010年)



「金大中」という名前を初めて耳にしたのは、小学校低学年のことだった。朝のテレビニュースが、金大中氏の裁判について報道しており、隣国の韓国で行われている裁判のことを日本のニュースが熱心に報道しているのを疑問に思った私は、母にその理由をたずねた。

「この人は何も悪いことはしていない。民主化運動のリーダーをやっていて、政治的な理由から死刑になりそうなの。」

それを聞いた私は一瞬身震いした後に、ごくりと唾をのみこんだ。そのときから、「金大中」という名前は私の脳裏に深く刻み込まれている。本書は、のちに韓国の大統領となった、その金大中氏と同時期に政治犯として、13年にもわたる獄中生活を強いられた一人の在日朝鮮人の研究者(77年死刑確定、82年無期懲役に減刑。88年に仮釈放され、89年に日本へ帰還。現在、早稲田大学アジア研究機構客員教授)が、朝鮮半島における南北統一実現への思いをかけて描いた韓国の民衆史の一端である。

日本の植民地支配と米国による軍事占領の後に、韓国社会は軍事独裁政権による圧倒的な支配下に置かれた。国家保安法の下で南北統一を目指す運動にかかわる者、その疑いをかけられた者は反共政策により、容赦ない弾圧を受けた。60年代から70年代にかけ、多数の在日朝鮮人の若者が母国留学をしたが、これらの若者のなかには著者と同様に、「北」のスパイ容疑で逮捕され、激しい拷問の末に死刑や無期懲役といった重刑攻撃にさらされた者がいた。

私は10年間にわたりパレスチナ難民の問題にかかわってきたが、そのなかで、アラビア語でワタン(故郷)と言われるものが一体何を意味するものであるのか、という問いを考え続けてきた。ワタンあるいは様々な理由から異郷に暮らすことを余儀なくされている者にとってピラードイ(祖国)とは、本来、そこに居住する者、あるいはその地に縁ある者がいかなる悲劇の出来事をも経験することがない、そのような地を指すものでなければならないのだということに気がついたのは、難民たちの故郷喪失のなかから次第に高まるパレスチナ人としてのアイデンティティを数多く聞き取ったのちのことだった。母国留学を果たした在日朝鮮人の若者にとってのワタン、あるいはピラードイとは、軍事独裁政権による人権蹂躪の嵐が吹き荒れるところでも、民族が「敵・味方」として分断され、あるいは家族が離散させられた地であってもしなかったはずだ。また、そのような「期待」の下で母国に渡ったわけではなかったはずだ。

民衆史とは、南北統一を望むゆえに、人生で最も「よき」時代を獄中で過ごさなければならなかった若者たち、そして何よりも貴重な生命を奪われた者たちの無念の思いを含む、彼女・彼らの歩みの一針一針よって紡がれた歴史を意味する。本書はそのような視点から、韓国の現代史をとらえなおした貴重な記録であり、また、そのような人々の闘いの一部をなすものである。その背景には幾多の民衆の犠牲>があるということを心に刻みながら、それらの一人一人の志が形として現れるとき、民衆は本当の故郷であるワタンを手に入れることができるのではないか。本書はそれが朝鮮半島のみならず、日本社会に住む<私たち>にも言えることを教えてくれる。

著者は軍事政権に打ち勝ち、「自由」になった。しかし、現在にいたるまで、朝鮮半島の人々は、彼・彼女(たち)が求めてきたはずの本当のワタンを手にすることができていない。その実現がいつのことになるのか。本書を通して、日本の植民地支配と軍事独裁政権とのつながりを考えるとき、日本に住む私(たち)にとっても、朝鮮半島における南北統一がとてつもなく大きな課題であることを再認識させられる。

清末愛砂(島根大学男女共同参画推進室講師)

■ 編集後記 ■

様々な講演会での取材を通じて、幅広くかつ専門的な知識を得られる、貴重な経験が出来ました。(M2 内田 淳美)

編集委員数名が卒業し、4月からは新たなメンバーが委員会に加わります。新体制で頑張りたいと思います。(M2 林 麗)

編集・発行

OSIPP広報・社学連携委員会・ニュースレター編集部
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-31,
大阪大学大学院国際公共政策研究科内, TEL 06-6850-5202,
E-mail: newsletter11@osipp.osaka-u.ac.jp

私の一冊

山田 康博 准教授

■ 小田実『何でも見てやろう』角川文庫、1979年(初出は河出書房、1961年)

読み込まれた本の裏表紙に、6種類の年月が書き込まれている。山田准教授は、過去に6度、本書を通読している。本書を手に取り、山田准教授は、「これは、私にアメリカを見に行かせた本です」と語った。

山田准教授が本書と出会ったのは、30年余り前、高校2年生の時であった。夏休みの宿題の読書感想文のリストに記載されていたことが、本書と山田准教授の出会いである。高校生だった山田准教授は、本書を一読し、一年間のアメリカ留学を決意する。

山田准教授は、本書を「グローバル化と言われる今日、日本以外の国や文化とどのように接するか、我われに示唆を与える一冊」だと評する。作家で平和活動家でもある小田実氏は、東京大学でギリシャ哲学を学び、アメリカに留学する。そして、その後日本に帰国する際に、ヨーロッパやアジアを旅する。小田氏は、「何でも見てやろう」の精神で、様々な場所を訪れる。本書は、その旅の顛末と小田氏の考えを記したものである。留学時にも日本から本書を持参した山田准教授は、ニューヨークをはじめ本書で紹介されている場所を訪れたと言う。

本書との思い出を振り返りながら、山田准教授は、「大学院生とは、『何でも見てやろう』精神を持っている人だ」と語り、何事にもチャレンジすることの大切さを学生へのメッセージとして送った。

